



「障害者一人一人が社会の中でいきいきと生きて行けるように支援すること。一人一人の個性を押し殺して社会に合わせるのではなく、どうしたら一人一人の個性(良い所)を社会の中でいきいきと暮らして行けるかを考えながら支援していきます」

PROFILE

事業類型:就労移行支援・B型

福祉サービス事業所ポノ・ポノ

施設長:長谷川貴士

株式会社OFA ※ポノポノはハワイ語で「幸せになる」という意味。

事業概要

就労移行支援 就労継続支援B型

千切り大根や野菜の袋詰め、印刷物の封入&ラベル貼り、その他請負作業、ハウス内作業(野菜・花)、除草作業、ポスティング、イベント出店・販売、施設外就労:清掃作業 自立訓練(生活訓練)

農福連携をはじめたきっかけ

長谷川氏はポノポノ起業以前、パソコンスクール勤務時代に、精神障害者に関わる機会があり、障害者の自己実現を支援したいと思い、自ら福祉事業所を起業した。

沿革(画期区分)

平成23年(2011) 開所

平成25年(2013) ポノポノ農園:枝豆、さつまいも、オクラ、きゃべつ、とうもろこしの試作

平成26年(2014) 高岡のハウス栽培したナス・ミニトマトを事業所前の直売所等で販売

平成28年(2016) ミニトマトの作付けをベンチ栽培で5aに切り替え

平成30年(2018) 自立訓練を新設 桃太郎トマト、テッポウユリ、カボチャの試作

24時間テレビ会場で出店

マスコットキャラのLINEスタンプの制作 自主製品のオンラインショップ開設

令和元年(2019) 生産者の畑の一部を借りることができた。ビートモスの試験導入

第1回ポノポノ祭の開催

令和2年(2020) ユニバーサルフィールドの『お野菜セット』梱包作業 バジルオイルの開発

ミニトマトに加え、ナス、カブ・ブロッコリー・バジル・栽培



■ ポノポノのマッチングストーリー

長谷川氏は起業後、きょうされん宮崎支部にて事業所運営についてのノウハウを学ぶ。利用者のリハビリテーションとしてナス栽培に挑戦するも失敗。農業知識不足に悩んでいるところへA氏との出会いによりミニトマトの栽培指導を受ける。農地借用交渉に難航したが、最終的には福祉事業へ理解を得て交渉成立へ。その後、観光農園を経営するB氏の助言により土壌改良を行った。収穫したミニトマトやナスは事業所横の直売所で販売。多くのマルシェやイベントにも出店。独自製品・加工食品と共に販売し、オンラインショップにも参加するなど販路拡大。コロナ禍で内職作業が減少し、今後は農業部門を事業の柱とするべく、収益向上に向けた再検討を行っている。

また長谷川氏は一事業所だけでは福祉の経営課題を解決できないと判断し、県内3事業所と組合を設立。各事業所の利用者が集まる作業場を設け、効率化と収益力の強化を図っている。加えて、取引企業への紹介など、就労につなげる取組も計画している。

■ ポノポノのマッチングポイント

1 マッチングの形態

地域の施設外就労などご縁のある農家に農業指導を仰ぐ。まず軽作業の共同受注のしくみを施設長自らが計画し・実行に移した。

2 その発展過程

除草作業からスタートし、露地野菜を試作。ハウス開設。テッポウユリなど収益化を目指し花卉栽培など様々な作物栽培を試行。ハウス内をベンチ栽培に切り替え。通気性、保水性、保肥性が高い土壌改良材のビートモスを導入。ミニトマトを主力商品とし増やしていく計画。

3 行政による財政的・人的支援

受けていない。

4 農業関係団体・福祉関係団体との連携形態

施設外就労の契約農家(農業指導者でもある)。事業所開設にあたり、きょうされんに加入し、障害福祉事業について学んだ。「一般社団法人わくわくネットワーク」宮崎市内の福祉サービス事業所が加盟し、商品販売を共同で行い、工賃アップで利用者のQOLの向上を目的とした団体。長谷川氏はが理事として参加。

5 マッチングの対象

地域:宮崎市内等 品目:ミニトマト・ナス・季節野菜
利用者:精神・知的・難病

6 コーディネーターの育成方法

長谷川氏の保険外交員という経験、困難な状況下で失敗から活路を見出すというメンタリティを所内規範としている。農業経験スタッフがナスの栽培方法の改良に取り組んでいる。農作業好きで探究心旺盛な利用者を農園責任者として雇用、合計3人体制で運営を任せ、未利用ハウスの活用を検討中。

ポノポノのネットワークと取り組み

